

外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成 ～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～

高齢化率の全国平均27.7%に対し、47.0%の熱海市は少子高齢化に伴う、人口減少等、将来の日本の地域課題を抱えている地域であり、本校は熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで熱海市の課題を自分事と捉え、地域と協働することにより、新たな価値の創造を目指す人材を育成する。

熱海高校、静岡県教育委員会、熱海市役所、熱海市立多賀小学校、熱海市立多賀中学校、地元企業、熱海伊東法人会、伊豆半島ジオパーク推進協議会を構成員としたコンソーシアムを構築し、総合的な探究の時間や教科横断的な学習を通じて、地域課題等の解決に向けた探究的な学びを進める。

令和2年度の目標

- ・ 地元企業の先駆者的人材から、課題の明確化、解決までのアプローチ、具体的方策を聴き取り、課題を自分事として捉える実践に取り組む。
- ・ 教科横断、教科間連携を取り入れた探究活動の実践を通し、新教育課程編成に具体的に位置づける取組を進める。

取組状況

- ・ 地域協働学習実施支援員を活用したコンソーシアム機能の充実
- ・ 各分掌、学年、類型等で実施している地域課題探究活動の深化
- ・ 地域探究活動の評価ツール（ルーブリック）を用いた評価の実践と検証
- ・ 県内外の教員と課題を共有するための研究成果発表会の開催

成果と課題

- ・ コロナ禍において地元企業の直面する課題と対処の実際を知り、生徒の主体性や社会貢献意欲が育まれた。
- ・ 地元に対する理解が深まり、地元企業への就職を意識する生徒が増加した。
- ・ 成果指標の一つである、「地元に残る、あるいは将来戻るとつもりである」と答えた生徒の割合が前年に続き目標値に達した。